

- 民間の資格・検定試験の活用にあたっては、CEFRのバンドによる段階別の結果表示が基本。
- スコア表示も行う場合、受検生の負担や、試験間のスコアの換算が困難であることなどが課題。

結果表示の方法	メリット	課題
<p>①CEFRのバンドによる段階別表示</p>	<p><input type="checkbox"/>各資格・検定試験の結果とCEFRのバンドとの対応関係が検証されており、それを介して試験間の比較が可能</p> <p><input type="checkbox"/>受検の過熱化(1点刻みの選抜による、より高い得点を求める傾向)の抑制</p> <p><input type="checkbox"/>②のスコア表示の場合と比較し、バンドに含まれる範囲が広く、テストの信頼性が高い</p>	<p>■大学における入学者の選抜への活用のための工夫</p> <p>■継続的なCEFRのバンドとの対照関係の検証</p>
<p>②資格・検定試験のスコア表示</p>	<p><input type="checkbox"/>①の段階別表示の場合と比較し、刻みが細かいため、選抜に活用しやすい</p> <p><input type="checkbox"/>資格・検定試験の結果をCEFRと対応させる作業が不要</p>	<p>■受検生がよりよい得点を求めて受検回数が増加する可能性。受検生の経済的・精神的負担が増大(受検回数の制限が必要)</p> <p>■各資格・検定試験相互のスコアの換算は困難であり、各大学の活用に課題</p> <p>■資格・検定試験の中には、刻みが少ないものも存在(例:IELTS、TOEFLiBT)</p> <p>■同一の資格・検定試験の複数回のスコアにおける1点を同質のものと考えられるか。</p>